

平成 21 年度
N G O アカウタバリティィー・セミナー
実施報告書

2010 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 国際協力 N G O センター

目次

平成 21 年度 NGO アカウンタビリティ・セミナー 事業報告書

1 . 平成 21 年度 NGO アカウンタビリティ・セミナーの目的	P.2
2 . 事前調査について	P.2
) 第 1 回助言委員会	P.3
) 首都圏 事前調査	P.4
) 中部地域 事前調査	P.5
) 関西地域 事前調査	P.5
3 . マニュアル作成について	P.6
) 第 2 回助言委員会	P.6
) マニュアル制作	P.6
4 . 検証ワークショップ開催について	P.6
) 首都圏 検証ワークショップ	P.7
) 中部地域 検証ワークショップ	P.7
) 関西地域 検証ワークショップ	P.7
5 . アカウンタビリティ・セミナー開催について	P.8
) 首都圏開催セミナー	P.8
) 名古屋開催セミナー	P.9
) 大阪開催セミナー	P.10
) アカウンタビリティ・セミナー全体の成果・課題	P.11
6 . 総括・提言	P.11

添付資料 成果物	「アカウンタビリティ・ガイド～計画的にアカウンタビリティ ーに取り組むために～」 検証ワークショップ及びセミナー実施報告書 地域別別紙 ~ アンケート集計結果
----------	--

1. 平成 21 年度 NGO アカウンタビリティ・セミナーの目的

本事業では、NGO が社会の一員として自らの活動や組織運営について、より積極的に情報公開や説明をしていくことが社会から求められているという認識に立ち、日々の業務の中で具体的な行動を起こせるようになることを目的とする。特に、情報がないことから取組みが遅れている NGO、特に日本の NGO の大半を占める中小規模の NGO 向けに情報を提供し、具体的には、組織運営や事業実施の各段階において取組むべきアカウンタビリティを理解し、実際の日常業務の中で取組めるようにする執務参考資料としてのマニュアルを作成する。また、完成したマニュアルを利用したセミナーを開催し、アカウンタビリティに計画的に取り組むことは可能であることを実感させ、本事業が NGO のアカウンタビリティへの理解促進と、着実な実践に貢献することを目指す。

本事業の戦略として主に次の 3 点に留意しつつ各活動を行い、効果を上げるように尽力する。

【助言委員会の設置を通じた内容の充実化】

助言委員会に関しては、国際協力 NGO のアカウンタビリティに関する見識のある NGO 関係者からなる「助言委員会」を設置する。同委員会は長年 NGO の運営に関わり、実践的に NGO のアカウンタビリティ強化に取り組んできていた NGO 関係者や、地方部や中小規模の NGO が抱えるアカウンタビリティに関する課題に精通している地域の NGO ネットワーク団体が構成する。同委員会は、主に事前調査段階とマニュアル内容・構成の検討段階で、当団体に対して助言を行なう。

【3 地域間の協力を通じた中小規模の NGO のニーズへの対応】

本事業の事業対象地は、首都圏、関西、中部の 3 地域とし、マニュアルの主要な利用者として想定される中小規模の NGO が多い地方部の NGO にも参考になるような情報を掲載したマニュアルを作る。関西、中部地域で行なわれる事業については、特定非営利活動法人関西 NGO 協議会および特定非営利活動法人名古屋 NGO センターへ委託し、実施する。

【実用性の高いマニュアル作り】

本事業においては、NGO の関係者が、日々の組織運営や事業実施に関わる様々な局面でアカウンタビリティの果たし方について、悩んだ際に参考にできる実用性の高いマニュアルとするため、マニュアルの中には参照にできる事例や見本、他団体の取り組み情報を掲載する。

2. 事前調査について

3 地域において、アカウンタビリティに関する日本の NGO の現状と課題に関する事前調査を行い、セミナー開催およびマニュアル作成業務にその成果を反映させた。助言委員会を設置し、助言委員からのアドバイスを踏まえ調査計画および項目を設定後、団体訪問調

査を中心した聞き取り調査を行なった。調査対象団体は、3地域から各6団体を選出し、その選出の方法に関しては、事業規模や有給スタッフ数など一定の基準を設け、それぞれから複数の団体として調査対象団体を決定した。

調査の項目については、 アカウンタビリティの実践に関する問題意識、 組織運営や事業実施、会計処理、情報公開など分野別の取り組み時の障害要因、 事例の収集（成功例または失敗例）を中心に聞き取りを行なった。

）第1回助言委員会

アカウンタビリティ・ガイドの制作にあたり、国際協力NGOのアカウンタビリティに関する見識のあるNGO関係者からなる助言委員会を設置するために、助言委員の選出を、以下の基準にもとづき就任依頼を行った。

	選出基準内容	依頼候補者
アカウンタビリティに関する知見を有するNGO関係者（2名）	国際協力の中で当団体を中心となって議論を重ねてきたアカウンタビリティの行動基準に関する議論や、NGO自身が行う自己診断ツールである「アカウンタビリティ・セルフチェック2008」の作成過程に関わったNGO関係者。社会的責任に関する国際規格であるISO26000に精通しているNGO関係者を選出。	・特定非営利活動法人シェア = 国際保健協力市民会 事務局長 山口誠史氏 ・特定非営利活動法人パブリックサポートセンター シニアフェロー 由良聡氏
地域NGOネットワーク団体からの選出者（2名）	関西地域（特定非営利活動法人関西NGO協議会）および中部地域（特定非営利活動法人名古屋NGOセンター）から選出。	・特定非営利活動法人名古屋NGOセンター 理事 木村真樹氏 ・近畿大学 理工学部 准教授 新田和宏氏

就任依頼に対する承諾を得て、以下の日程で第1回助言委員会を開催した。

日時：2009年7月24日 13:30～15:30

場所：国際協力NGOセンター（JANIC）会議室

出席者：特定非営利活動法人 シェア = 国際保健協力市民の会 事務局長 山口誠史
 特定非営利活動法人 パブリックリソースセンター シニアフェロー 由良聡
 特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター 理事 木村真樹
 近畿大学 生物理工学部 准教授 新田和宏
 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター マネージャー 松尾沢子
 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター 松原和紀

議題に関しては、 本事業の概要および全体スケジュールの説明、 マニュアル案コンセ

プトの検討、 事前調査対象団体の選出方法および調査項目の検討について話し合われた。議題に対して論点としては、「どのレベルのNGOを対象とし、どのような効果を期待するのか」を明確にするために事前調査の項目をつくること。特に、アカウンタビリティに対する認識や現状把握を調査すること。またアカウンタビリティに繋がっている日々の活動やパンフレットなど情報開示のための素材の収集、今後具体的な行動をイメージしやすいよう事例を紹介すること、等が話し合われた。

以上を踏まえ、以下の項目について事前調査を実施した。

- ・ 現状確認：アカウンタビリティ向上に対して特に意識していることは何か？支援者に対しての活動報告、会計報告の情報開示など
- ・ 影響や期待される効果に関する認識：資金調達力や組織への信頼、スタッフのモチベーションアップなど
- ・ 具体例やこれまでの経験則：
 - a. 組織運営や活動運営上で深刻な課題を残した経験（ヒヤットした）
 - b. 事前に講じていた方策が効果を発揮した経験（やっておいて良かった！）
 - c. 実際に使用されている様式や実施されている手順、状況しめす写真
- ・ その他の関連情報

以下の基準をもとに調査対象団体を各地域 6 団体ずつ選定した。

- (ア) 日本の国際協力NGOの大半を占める規模層(年間予算 500 万～1 億の規模層で全体の 53%を占める)
- (イ) 当団体の組織強化関連の研修に参加実績のある団体。組織強化の取組みに対して意欲があり問題意識が強い団体
- (ウ) 首都圏や関西、中部以外の地方の団体で上記 2 点に該当する団体。

) 首都圏 事前調査

調査対象団体 特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会
実施日：2009年8月3日 面談者：事務局長 斉藤龍一郎
社団法人 シャンティ国際ボランティア会
実施日：2009年8月10日 面談者：事務局長 関尚士
特定非営利活動法人 地球市民 ACT かながわ/TPAK
実施日：2009年8月11日 面談者：事務局長 伊吾田善行
特定非営利活動法人 国際ボランティアセンター山形
実施日：国際ボランティアセンター山形 面談者：事務局長 安達三千代
障害分野NGO連絡会
実施日：2009年8月17日 面談者：国際部長 上野悦子
特定非営利活動法人 環境修復保全機構
実施日：2009年8月25日 面談者：事務局長 上野貴司

) 中部地域調査

調査対象団体 特定非営利活動法人 ホープ・インターナショナル開発機構

実施日：2009年8月21日 面談者：代表 シェパード氏
ニカラグアの会

実施日：2009年8月21日 面談者：事務局長 伊藤幸慶

特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター（ICAN）

実施日：2009年8月21日 面談者：斉藤

特定非営利活動法人 地域国際活動研究センター

実施日：2009年度9月4日 面談者：事務局長 杉本正次

特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

実施日：2009年9月7日 面談者：理事 河田昌東

イカオ・アコ

実施日：2009年9月7日 面談者：代表 後藤

) 関西地域調査

調査対象団体 特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか

実施日：2009年8月27日 面談者：代表 葛西芙紗

特定非営利活動法人 インドマイトリの会

実施日：2009年8月25日 面談者：吉田

日本国際飢餓対策機構

実施日：2009年9月15日 面談者：西川

特定非営利活動法人 アクセス 共生社会をめざす地球市民の会

実施日：2009年9月10日 面談者：理事 野田沙良

特定非営利活動法人 Seeds Asia

実施日：2009年9月8日 面談者：事務局長 中川裕子

財団法人 PHD 協会

実施日：2009年8月28日 面談者：総主事代行 藤野達也

3 地域の事前調査より、以下の課題が見えてきた。

- ・ アカウンタビリティの重要性は理解しつつも、何から始めたらよいのかが分からない。
- ・ NGOにとってアカウンタビリティを果たす理由や局面、ステークホルダー、などが多様であること。
- ・ アカウンタビリティの取り組みかかるコストと労力に見合う効用を実感できていないこと。
- ・ 2つの地域のNGOについては、そもそもアカウンタビリティとは何かを理解できていない現状があること。

3. マニュアル作成について

第2回助言委員会においてマニュアル案の構成案について検討がされた。同会議には制作業者である(有)エデュテイメント・プラネットも同席した。

) 第2回助言委員会

日時：2009年9月15日 13:30 - 15:30

場所：国際協力NGOセンター 会議室

出席者：第1回助言委員会出席と同様

有限会社エデュテイメント・プラネット 取締役社長 柳田善弘

有限会社エデュテイメント・プラネット 片貝英行

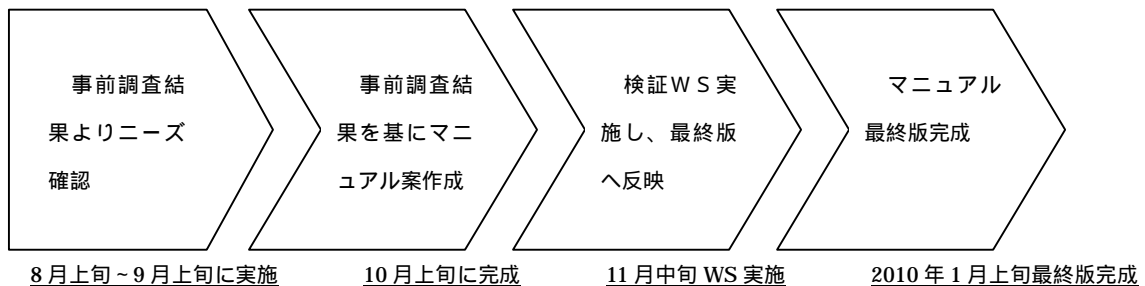
議題：1. 事前調査の進捗および実施報告に関する情報共有

2. 教材制作業者の紹介

2. 事前調査の結果を踏まえた、マニュアル案の検討

) マニュアル制作

事前調査結果を踏まえ、マニュアル案の内容・構成について当団体が素案を作成し、助言委員会のアドバイスを得た。助言委員会後に仕様書を確定し、必要な素材をあわせ教材制作業者に提供し、同業者にて検証用のマニュアル案を作成した。3地域での検証ワークショップの結果も踏まえたマニュアル最終版を完成させた。作成のプロセスおよび実施時期は次のとおり。



4. 検証ワークショップについて

本事業実施対象者3地域において検証用マニュアル案を用いて、検証ワークショップを行った。NGO団体が容易に理解でき、且つ実務において日常的に利用できるマニュアルとするために、実際の利用者であるNGO団体にモニター団体として協力してもらった。

モニター団体は、各3地域の事前調査団体から3-4団体選出し、意見交換の場となる検証ワークショップ参加にあたり、事前にマニュアル案を読み、現場での利用方法等について検討するように依頼し、当日はマニュアルの実用性向上のための提言を行った。特に、以下の項目に対する意見を集中的に抽出できるよう事前に周知した。

文章の読みやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の読み易さ（文字の大きさ、レイアウト、図表類）についてどうか？ ・理解しやすい文章展開になっているか？
学習効果の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・本企画の編集方針・狙いに対し、各団体のニーズと合致しているか？ ・団体内の他メンバーに対する波及効果はどうか？ ・掲載事例の現実感或いは汎用性がある事例紹介になっているか？
追加記載の要望	<ul style="list-style-type: none"> ・その他、問題提起や追加で掲載して方がよい事例の提案。

検証ワークショップのファシリテーターについては、上記の各項目を相対的に判断するため 3 地域共通で同一人物が実施することが望ましいため、当団体の能力強化グループマネージャーである松尾が務めた。

検証ワークショップは以下の日程にて実施された。

）首都圏 検証ワークショップ

開催日時：2009年11月10日（火）14：00 - 17：00

会場：キリスト教会館 6F

出席者： 特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会 事務局長 齊藤龍一郎
 特定非営利活動法人 国際ボランティアセンター山形 理事 安達三千代
 特定非営利活動法人 地球市民 ACT かながわ/TPAK 事務局長 伊吾田善行
 有限会社エデュテイメント・プラネット 取締役社長 柳田善弘
 特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター マネージャー 松尾沢子
 特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター 松原和紀

）中部地域 検証ワークショップ

開催日時：2009年11月18日（水）13：30 - 16：30

会場：Combi 本陣 1F 会議室

出席者： 特定非営利活動法人 地球国際活動研究センター 事務局長 杉本正次
 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 運営委員 河田昌東
 ニカラグアの会 伊藤昌慶
 特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター 理事 木村真樹
 特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター 事務局長代理 村山佳江
 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター マネージャー 松尾沢子
 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター 松原和紀

）関西地域 検証ワークショップ

開催日時：2009年11月20日（金）18：00 - 20：00

会場：大阪聖パウロ教会 4F 会議室

出席者： 特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか 事務局長 筒井百合子
 特定非営利活動法人 アクセス 共生社会をめざす地球市民の会
 理事 野田紗代
 特定非営利活動法人 関西NGO協議会 宮下和佳
 近畿大学 准教授 新田和宏
 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター マネージャー 松尾沢子
 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター 松原和紀

検証ワークショップの結果、3地域共通のコメントや懸案事項は以下の内容であった。

・事例について、リアリティー感が弱い(例：顛末まで掲載してほしい)、事例数が少ないなど、掲載情報や方法に関する意見があった。一つ一つの事例を丁寧に説明し、成功事例・失敗事例をバランスよく提示する。

対応策：また参加になる事例については、団体名を開示することによって、現実感のある事例紹介を行う。

・アカウントビリティを計画的に取組むための仕掛けとして、ロジックモデルでは理解しづらい。「投入 活動 結果 成果」という政策評価に使用されるロジックモデルをアカウントビリティに採用するのは適切ではないという意見が多くでた。

対応策：計画的に実践できるよう、ロジックモデルとは別な考える仕組みを検討する必要がある。

・3地域でのワークショップ終了後、教材制作者へ修正・改善事項の連絡を行ない、マニュアル最終版の制作を行った。

5. アカウタビリティ・セミナー開催について

国際協力に従事するNGO全般に関わるアカウントビリティのレベルアップに貢献するため、マニュアルを用いたセミナーを開催し、NGO関係者に対し、アカウントビリティに関する講義と具体的な取組み方法を習得するためのセミナーを3箇所で開催した。

）首都圏開催セミナー

A. セミナー実施報告

日時： 2010年3月8日(月) 13:30~17:30

会場： 早稲田奉仕園 日本キリスト教会館6F フォークトルーム

運営： 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター

【参加状況】参加団体 19団体 28名参加

1	ダイバーシティ研究所
2	(財)日本YMCA同盟
3	(社)日本キリスト教海外医療協力会
4	(特活)国境なき子どもたち

5	(特活) FoE Japan
6	(財)日本フォスタープラン教会
7	(特活)日韓アジア基金・日本
8	(特活) ACE
9	(特活) Table for Two University Association
10	(特活)ブリッジエーシアジャパン
11	JEL A (日本福音ルーテル社団)
12	(特活)国際協力NGO - IV - JAPAN
13	(特活) TICO
14	(特活)フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJapan
15	(特活)ジェン
16	(特活)日本国際ボランティアセンター
17	(特活)パレスチナ子どものキャンペーン
18	(特活) JADE
19	(特活)ジョイセフ

【プログラム】 別紙 実施報告書 添付資料

- 13:30 - 主催者あいさつ
- 13:45 - 「支援者とのコミュニケーション」について、自主財源率アップを維持する認定NPO法人3団体の事例から学ぶ
- 15:00 - コミュニケーションツールの一つであるウェブサイトの活用法について、認定NPO法人3団体のウェブサイト検証を行なう
- 16:10 - アカウンタビリティ・ガイドを用いたワークショップ
- 17:20 - 閉会あいさつ

) 名古屋開催セミナー

A. セミナー実施報告

- 日時： 2010年2月13日(土) 13:30~17:00
- 会場： COMBi 本陣 N106 (愛知県名古屋市中村区松原町1-24、地下鉄東山線「本陣」駅下車徒歩1分)
- 運営： 特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

[参加状況]

参加人数：10名 参加団体：6団体

1	(特活)名古屋NGOセンター
2	(特活)レスキューストックヤード
3	(特活)ボラみみより情報局
4	(財)アジア保健研修財団

5	岐阜・野宿生活者支援の会
6	(特活) ACHAN JAPAN

[プログラム] 別紙 実施報告書 添付

- 1) 13:30～13:35 運営者挨拶
 - 2) 13:35～13:50 今日のねらい・進め方の共有など
ファシリテーター：木村真樹 (特活) 名古屋 NGO センター 理事
 - 3) 13:50～14:50 話題提供 1：支援者を巻き込む伝え方とは？
～初対面の人が支援者にかわる「ダイレクトダイアログ」(DD) という手法～
講師 中山学氏 株式会社バリオーサ 代表取締役
久富恵雄氏 (社) アムネスティインターナショナル日本支部 109G わや
 - 4) 14:50～15:15 話題提供 2：企業は NGO の何を見ているか？
～課題解決に向けたパートナーとしての企業と NGO～
講師 岩原明彦氏 株式会社デンソー 経営企画部 CSR 推進室 室長
 - 5) 15:15～15:20 各人での振り返り 質問票への記入
 - 6) 15:20～15:30 休憩 (質問票の回収)
 - 7) 15:30～16:00 各ゲストとの一問一答
 - 8) 16:00～16:45 ワークショップ：あなたの団体は何を解決する？
～「問題の解決策」として団体紹介をしてみよう～
ファシリテーター 木村真樹 (特活) 名古屋 NGO センター 理事
講師 中山学氏 株式会社バリオーサ 代表取締役
- 17:00 終了

大阪開催セミナー

A. セミナー実施報告

日時：2010年2月27日(土) 14:00 - 17:00

会場：大阪NPOプラザ 会議室E (大阪市福島区吉野4丁目29-10)

運営：特定非営利活動法人 関西NGO協議会

【参加状況】

参加人数：10名 参加団体：7名

1	(財)大阪YWCA
2	(特活)食と農の研究所
3	(特活)アクセス 共生社会をめざす地球市民の会
4	(特活)AMネット
5	(特活)開発教育教会(DEAR)大阪事業所
6	(特活)JIPPO

(目的) 参加者が「アカウンタビリティガイド」を読み、アカウンタビリティ計画シートの使い方を学ぶことを目的とする。内容としては(特活)アクセス 共生社会をめざす地球市民の会、(特活)AMネット、(特活)関西NGO協議会の3団体が、実際に構想中の活動計画に対するアカウンタビリティの取り組み案を発表し、それについて講師および参加者で議論をする。

講師兼全体ファシリテーター：新田和宏(近畿大学生物理工学、地球市民教育総合研究所)

講師：長澤正敏(中小企業診断士、(特活)エスビューロー)

講師：松尾沢子((特活)国際協力NGOセンター 能力強化グループ マネージャー)

【プログラム】 別紙 実施報告書 添付

1. 14:00 - 開会挨拶及びイントロダクション
2. 14:10 - 事例検討 田中十紀恵(特活)関西NGO協議会
3. 14:40 - 事例検討 堀内葵 (特活)AMネット
4. 15:20 - 休憩
5. 15:40 - 事例検討 森脇祐一 (特活)アクセス 共生社会をめざす地球市民の会

アカウンタビリティ・セミナー全体の成果と課題

地域特性にあわせたテーマ設定でセミナーを開催し、全体的に参加者からの満足を得ることができた。地方開催においては参加者数が若干伸び悩んだという結果については、開催の時期や日時などの問題も考えられるが、依然としてアカウンタビリティに消極的な傾向があるとも考えられる。アカウンタビリティについて、「難しそう」とか、「分からない」という印象や抵抗感を持つNGOも少なくないということが事前調査や検証ワークショップを通じて感じられた。今後は、そうしたNGOにも参加を促せるように、広報稼働の工夫が必要であるという課題が残った。

本事業の対象層である中小規模NGO(500万 1億規模)から多くのスタッフの参加者が集まったことは大きな成果であったのではないかと思う。人や時間、お金に余裕のない中小規模のNGOが、今後アカウンタビリティに出来ることから取り組むことに繋がっていくが期待できる。アカウンタビリティを計画的に取り組むための方法論については理解しやすさや説得力の面で課題を残したが、セミナーを通じて「アカウンタビリティ・ガイド」を普及することで計画的に取り組むことへの提案を行なえたと思う。

6. 総括・提言

本事業に関しては、団体内での自習教材として活用できるようなアカウンタビリティに関する参考資料の作成と、セミナー開催を通じて、多くのNGOがアカウンタビリティ

ーについて理解を深めると共に実践を行い、行動変容へつなげることを目的とした。その過程で特に注力した実用性の高い内容にするという点については、3 地域のネットワーク NGO を通じた助言委員の選出や事例収集を行う、地域の中小規模の NGO も含めた多種多様な事例を集めるという活動。さらには「アカウントビリティ・ガイド～計画的にアカウントビリティーに取り組むために～」の素案段階での実際の NGO 関係者による試用とその結果の意見収集（検証ワークショップ）という手順を取って進めることができた。この結果、NGO のアカウントビリティーに関する取組みの現状の認識や問題・課題を把握することに繋がったと考えている。

ガイドのメッセージや構成については実際の活動現場での使用がされるように事例やワークシート形式を導入した。当座の反応としては理解に役立つとの評価を得ているが、今後の普及にあたっては、ガイド配布のみでなく利用方法や追加的な事例を紹介しつつ、共に議論する機会をあわせて設けることが望ましいと考える。

理解促進のために実施した各地域のセミナー開催後にとったアンケートの総評として、以下のような意見が多かった。

- ・ アカウントビリティーに関する基礎知識の習得と具体的なアクションを知ることができた。
- ・ 支援者との対話やコミュニケーションの活性化が、組織への信頼やアカウントビリティーに繋がることを実感することができた。

これらの意見から、NGO がアカウントビリティーに取り組む際に必要な知識やアクションのイメージ（特に具体的な成功経験からの学び）を持っていないことが推察できる。団体によっては、アカウントビリティーに関する基本的情報が不足していることも垣間見られた。今回の各地でのセミナーを通じて、アカウントビリティーとは、「団体にとって重要とされる利害関係者（ステークホルダー）との対話やコミュニケーションの活性化である」というメッセージを伝え、漠然と取り組むのではなく、「目的意識や目標を据えながら計画的に取り組むことが、最初のアクションとして必要」という点を理解し、団体内で話し合うきっかけの提供につながったと思われる。

他方、セミナーにおいて、この二つのメッセージを効果的に伝えるためのプログラム構成や方法論については、工夫が必要であることが参加者からの意見として明らかになった。

今回の事業においてアカウントビリティーに取り組むための参考資料の作成と理解促進のためのセミナーの開催は一定の成果をあげることができたと考えるが、依然 NGO 全体が抱えるこのような社会や支援者と積極的に関わっていく、あるいは組織の透明性を高めていく際の人的・時間的資源の不足が課題として存在することが顕在化した。

今後、NGO が社会の一員として自らの活動や組織運営について、より積極的に情報公開や説明をしていくことを通じた社会からの支援・信頼の確保の向上に取り組んでいくことが必要と考える。

アカウントビリティーに取り組むことによって生まれる効用を実感できるような事例

の紹介・具体的な活動の紹介

事例調査や検証ワークショップで参加団体からの多く聞かれた意見として、取り組みの第一歩に必要なのは「アカウントビリティによる効用・メリットを実感できること」であった。セミナー参加者のアンケート回答でも同様の意見が多く寄せられた。特に好例と考えられる事例紹介の場を提供していくことが重要と考える。

アカウントビリティの基礎知識の向上のための研修機会の提供

財政規模の大きいNGOではアカウントビリティ向上の必要性の認識や実践は基本動作になってきていると思われるが、今回の事業で対象とした層（年間財政規模 500 万～1 億）のNGOでは、いまだ基本的知識を持つに至っていない団体も少なくない。今後も継続的にアカウントビリティの知識を身に付けることができる研修機会の提供が必要と考える。

理事や事務局長・管理職クラスなど組織全体の理解促進を図るため個別対応型のコンサルティングの提供

アカウントビリティについて取り組む際の重要なことの一つとして、理事やスタッフを含め組織全体で共通の認識をもつことがある。各地のセミナーでは理事や事務局の責任者クラスの職員の参加も目立ったが、全般的な傾向としては参加者の大半は、広報担当や総務担当であった。組織のアカウントビリティを向上させるには、スタッフレベルの理解だけでは困難であること、個々の団体によって理解度合いや取り組みのスピードなどが異なるといったNGO側の多様性を考慮した場合、個別対応型のコンサルティングも並行して行われることが必要と考える。

アカウントビリティの取り組みを外部と共有するコミュニケーションツールの充実化

アカウントビリティを実践していることを、対外的にどのように情報を発信していくかも配慮した、様々なステークホルダーとのコミュニケーションツールの充実にむけ、既存の好事例の収集・共有などの形で取り組むことが今後必要と考えられる。

以上